

リモートI/O変換器 <b>R5</b> シリーズ		
取扱説明書	PROFIBUS-DP用、アナログ32点対応	形式
	通信カード	R5-NP2

## ご使用いただく前に

このたびは、エム・システム技研の製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本器をご使用いただく前に、下記事項をご確認ください。

### ■梱包内容を確認して下さい

・通信カード .....1台

### ■形式を確認して下さい

お手元の製品がご注文された形式かどうか、スペック表示で形式と仕様を確認して下さい。

### ■取扱説明書の記載内容について

本取扱説明書は本器の取扱い方法、外部結線および簡単な保守方法について記載したものです。

### ■GSD ファイル

GSD ファイルは、弊社のホームページ <http://www.m-system.co.jp> よりダウンロードが可能です。

## ご注意事項

### ●EU 指令適合品としてご使用の場合

- ・本器は盤内蔵形として定義されるため、必ず導電性制御盤内に設置して下さい。
- ・お客様の装置に実際に組込んだ際に、規格を満足させるために必要な対策は、ご使用になる制御盤の構成、接続される他の機器との関係、配線等により変化することがあります。従って、お客様にて装置全体でCEマーキングへの適合を確認していただく必要があります。

### ●取扱いについて

- ・本体の取外または取付を行う場合は、危険防止のため必ず、電源を遮断して下さい。
- ・本器は、規定により電源投入時に出力を全てOFFにしなければなりません。このため電源をONにしたまま、通信カードの交換はできません（接点出力の場合は全てOFF、アナログ出力の場合はデータ“0”を出力します）。
- ・本体側面のディップスイッチは、電源が遮断されたメンテナンス時のみ設定可能であり、通電時は操作しないで下さい。

### ●設置について

- ・屋内でご使用下さい。
- ・塵埃、金属粉などの多いところでは、防塵設計のきょう体に収納し、放熱対策を施して下さい。
- ・振動、衝撃は故障の原因となることがあるため極力避けて下さい。

- ・周囲温度が-10～+55℃を超えるような場所、周囲湿度が30～90%RHを超えるような場所や結露するような場所でのご使用は、寿命・動作に影響しますので避けて下さい。

### ●配線について

- ・配線は、ノイズ発生源（リレー駆動線、高周波ラインなど）の近くに設置しないで下さい。
- ・ノイズが重畳している配線と共に結束したり、同一ダクト内に収納することは避けて下さい。

### ●その他

- ・本器は電源投入と同時に動作しますが、すべての性能を満足するには10分の通電が必要です。

## 取付方法

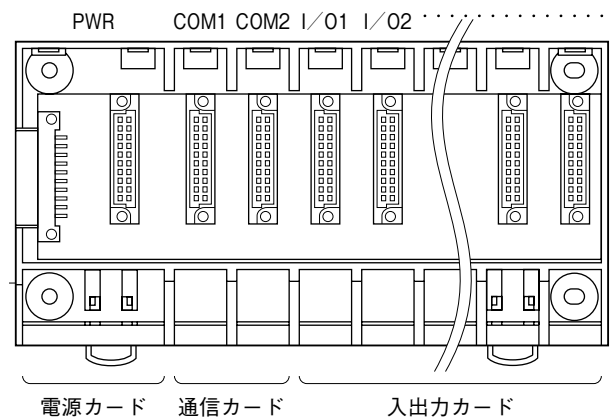
ベース（形式：R5-BS）をお使い下さい。

ただし、通信カード（形式：R5-NP2）をベースに取付ける前に、下記の項目を行って下さい。

### ■局番の設定

必ずカードを取付ける前に、通信カードの局番を設定して下さい。局番は前面のロータリスイッチにより、00～7Dまで設定可能です。ただし、7Dより大きな値を設定した場合も、アドレスは7Dとなります。

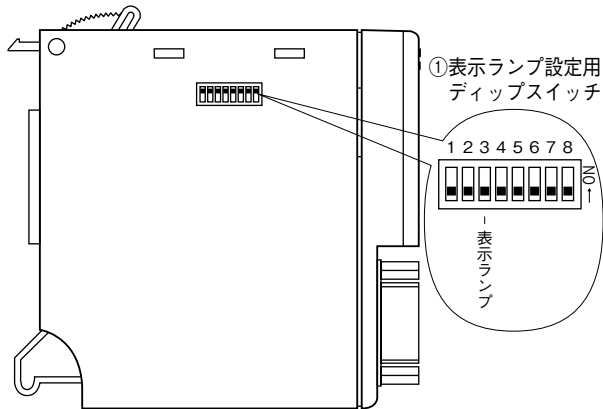
### ■ベースへの取付



通信カードはCOM1、COM2の位置に取付けます。COM2はPROFIBUSを2重化するためのスロットで通常使用しません。ただし、2重化用の入出力カードを用いている場合には、COM1、COM2のどちらに通信カードを取付けても動作します。なお、シングルモード用のベース（形式：R5-BS05、R5-BS09）の場合、COM2はありません。

## 各部の名称

### ■側面図



### ■側面ディップスイッチの設定

#### ●表示ランプ設定 (SW3)

SW3	表示ランプ	
	RUN	ERR
OFF(*)	正常時 緑色点灯	異常時 緑色点灯/点滅
ON	データ受信時 赤色点灯	データ送信時 赤色点灯

(\*) 工場出荷時の設定

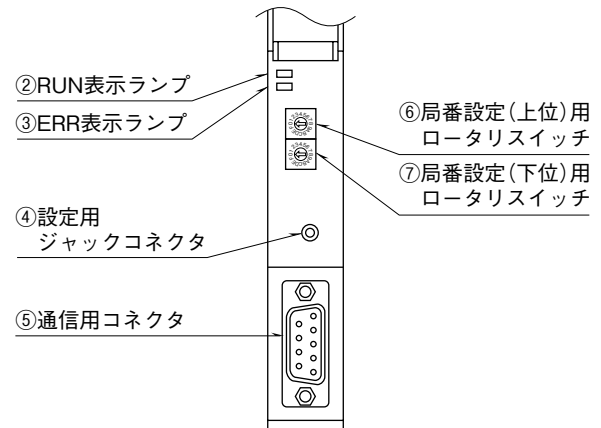
注) SW1、2、5～8は未使用のため、必ずOFFにして下さい。

### ■前面スイッチの設定

#### ●局番設定 (SA1、SA2)

2個のロータリスイッチにより、局番を16進数で設定します。(00～7D)

### ■前面図



### ■PROFIBUS インタフェース

略号	ピン番号	機能
NC	1	(未使用)
NC	2	(未使用)
B_line	3	通信ライン(B)
RTS	4	送信要求
GND	5	0V
P5V	6	5V
NC	7	(未使用)
A_line	8	通信ライン(A)
NC	9	(未使用)

## コンフィギュレータソフトウェア設定

コンフィギュレータソフトウェアを用いることにより、以下の設定が可能です。

コンフィギュレータソフトウェア (形式: R5CON) の使用方法については、R5CONの取扱説明書をご覧ください。

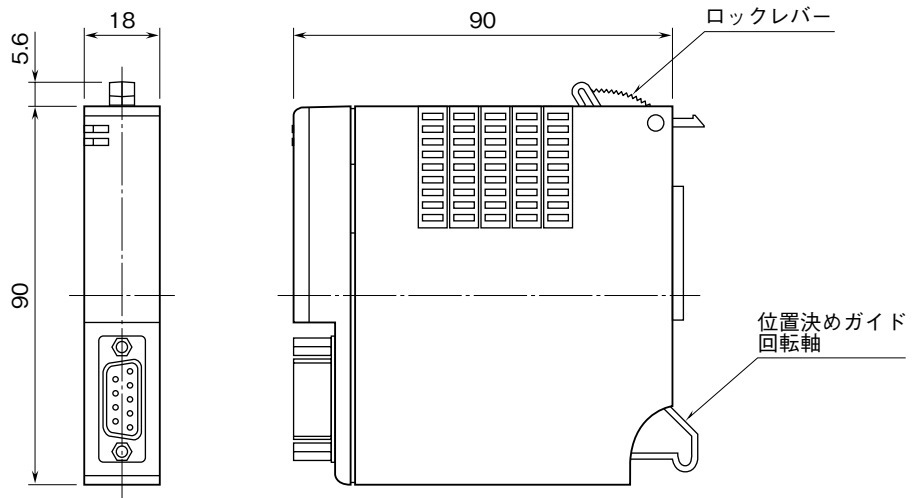
### ■通信カード設定

項目	設定可能範囲	出荷時設定
通信タイムアウト時間	0～32767 (0.1 秒)	30 (0.1 秒)

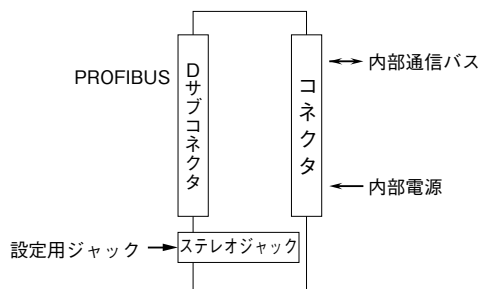
# 接 続

各端子の接続は端子接続図を参考にして行って下さい。

## 外形寸法図 (単位 : mm)



## 端子接続図

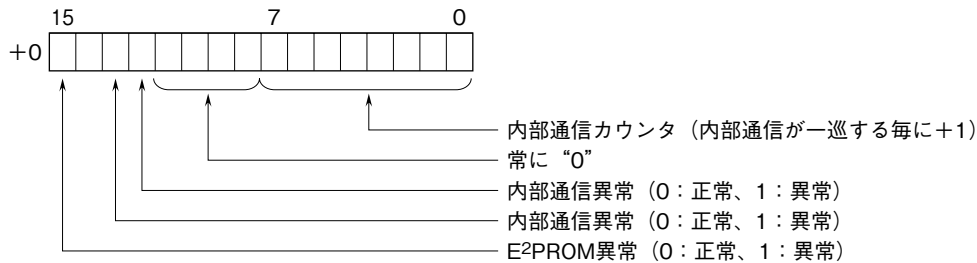


## 伝送データ

■状態フラグ (I/O スロットのカード構成を定義する際に、I/O カードのないスロットに“R5-IO-MODULE-STATUS”を定義すると使用できます)

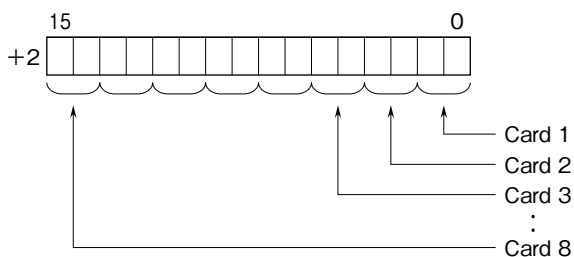
FLG：各カードとの通信状態をチェックします。カードの未実装、設定したカードと異なる種類のカードが実装されている場合、または通信異常が多発する場合に対応するビットが“1”となります。

・ FLG

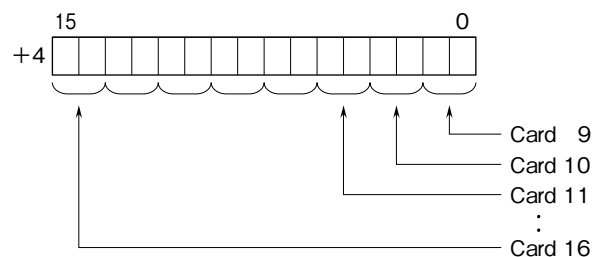


ERR1、ERR2：アナログ入力カードが未実装または設定したカードと異なる種類のカードが実装されている場合、対応するチャンネルのビットが“1”になります。アナログ入力カードでは上下限チェック、ADC チェックにより異常を判定します。異常の場合、対応するビットが“1”となります。アナログ出力カードでは、出力のリードバック機能にて、出力の断線（電流出力カード）により異常を検出し、対応するビットを“1”にします。カード番号が小さい順に、占有エリア数のビットを確保します。下位ビットが入力1となり上位ビットが入力2となります。

・ ERR1



・ ERR2

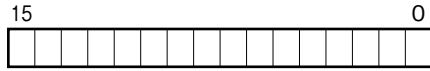


## 入出力データ

以下に代表的な入出力カードのデータ配置を示します。

入出力カードの詳細なデータ割付けは、それぞれの取扱説明書を参照して下さい。

### ■アナログ 16 ビットデータ（形式：R5—SV、YV、DS、YS、RS、TS など）



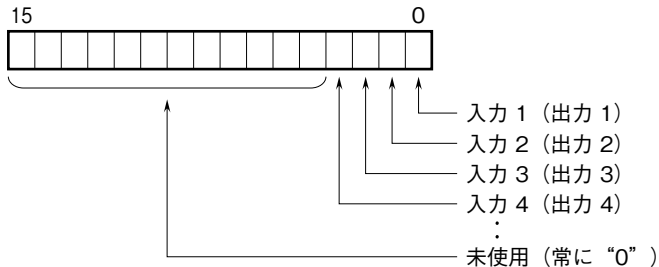
各カードに設定されている入出力レンジの 0～100% を 0～10000 のバイナリ（2 進数）で示します。

温度入力では、温度単位が摂氏（℃）、絶対温度（K）の場合、実量値を 10 倍した値で示します。例えば、実量値が 25.5℃ の場合は“255”がデータとなります。

温度単位が華氏（°F）の場合、実量値の整数部がデータとなります。例えば、実量値が 135.4 °F の場合は、“135”がデータとなります。

また、各データの負の値は 2 の補数で示します。

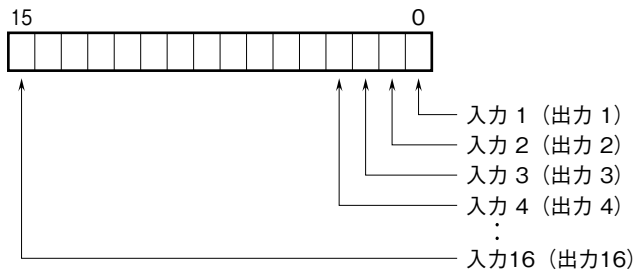
### ■4 点用接点データ（形式：R5—DA4、DC4 など）



0 : OFF

1 : ON

### ■16 点用接点データ（形式：R5—DA16、DC16 など）



0 : OFF

1 : ON

## 保証

本器は、厳密な社内検査を経て出荷されておりますが、万一製造上の不備による故障、または輸送中の事故、出荷後 3 年以内正常な使用状態における故障の際は、ご返送いただければ交換品を発送します。